

大学図書館問題研究会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町 34 京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

支部総会開催される

9月26(日)午後6時半より京大会館にて第20回支部総会が開催されました。支部委員を含め計12名の参加者にとどまりましたが、活発な意見の交換ができました。

第1号議案「1996年度活動総括及び1997年度活動方針」では去る7月5日に開催された「職員問題」ミニ研究集会について多くの意見が出ました。主催した側にとって予想した以上に反響が大きいことがわかりました。

内容については多岐にわたっているが、図書館現場の「今」の状況の問題点を素直に出した点を評価する意見がありました。そのほか図書館職員をめぐる様々な問題が話題になりました。発言内容をいくつか紹介します。「若手の現場図書館員は仕事の知識を深めたいと思っているが、チャンスがない」「小さなグループがあちこちあるがお互いにつながりがなく孤立している」「図書館員の倫理綱領を研修内容に入れるべきである」「人材として期待できる人はパートタイマーであったりする」「国家公務員2種合格者は地方の国立大学図書館にはいない」「国立大学図書館の課長の3分の2は図書館職員でない」

また財政活動報告の中の特別事業基金については、なぜ必要なのか説明不足であり、具体的な目標が必要であるとの指摘がありました。活動方針については大学図書館をめぐる状況についての討論会の具体的な内容に関する質問がありました。漠然としたテーマにした理由は、ざっくりぼらんな話し合い

を通して、混沌とした中から何かがつかめるのではないかという意図によるものです。来年の春頃に開催するつもりです。

次に第2号議案「1996年度決算報告/1997年度予算及び会計監査報告」に移り修正なしで承認されました。特別事業基金については来年度予算からは増やさないことが確認されました。

続いて第3号議案「1997年度支部役員選挙」で候補者8名全員が異議なく承認されて閉会となりました。

目次	支部総会開催される……………	1頁
	新支部委員と任務分担……………	2頁
	好評!の「数珠つなぎ」……………	2頁
	新企画のお知らせ!……………	3頁
	1996年度決算……………	4頁
	1997年度予算……………	5頁
	特別事業基金の予算決算……………	6頁
	会計監査報告……………	6頁
	数珠つなぎ②……………	8頁

支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付(京都橘女子大学)

☎ 075-574-4118 FAX 075-574-4124

♥ kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

新支部委員と任務分担（任務分担は、10月7日第1回支部委員会決定）

支 部 長 篠原俊夫（京都大学総合人間学部図書館）
副支部長 竹本文夫（元同志社大学人文科学研究所図書館）
事務局長 大館和郎（京都学園大学図書館）
支部報編集 田北十生（京都橘女子大学図書館）
支部報編集 堤美智子（京都大学総合人間学部図書館）
支部報編集 呑海沙織（京都大学工学部電気電子工学系図書室）
組 織 井上雅人（立命館大学図書館）
財 政 中嶋スエ子（京都大学工学部航空宇宙工学図書室）

会計監査

末益尚文（京都大学教育学部図書館）
福井京子（京都大学教育学部図書館）

全国委員 篠原俊夫（京都大学総合人間学部図書館）

好評！の「大図研京都数珠つなぎ」の原稿と「つなぎ」について

（1）規格

本文40字、40行を1ページの分量としています。従って、最低でも30行以上とします。1ページ以上の原稿でもかまいませんが、その場合文章は前ページへ逆進読みとなります。

（2）原稿締切：掲載月の前月25日必着（正真正銘！サバ読みなし）

（3）担当者連絡先 〒607 京都市山科区大宅山田町34

京都橘女子大学図書館 田北十生（タキ カスオ）

Tel 075-574-4118 FAX 075-574-4124

（自宅）

（4）電子メール宛先 [redacted] （自宅）

（5）お名前のヨミと職場の正式名称を必ずどこかに書いておいて下さい。

（6）「大図研京都数珠つなぎ」について

これまでにない企画のうえ、すでに20回毎月連続掲載をしてきていますので、スムーズに連載が進行しますようご協力をお願い致します。何かとご無理を申し上げますが、親睦を目的とした企画ですのでご協力をお願い致します。

「公式発表」されている「執筆ルール」は以下の通りです。

- ① 内容は自己紹介（自分の職場紹介、自分の家庭紹介、自分の趣味紹介など）、他人紹介、政策的意見（図書館界、職場、世の中に対する提言など）、仕事の悩み、マル得情報・ウラ情報、逆に「困っています誰か教えて下さい」公告、随筆、短篇小説、4コマ漫画、詩、イラストなど何でもOK。別にカタイ内容でなくてもいいし、十分カタくてもいい。とにかく、何でもいい（でも出来ればヤワラカイ方がずっといい）。
- ② 原稿分量は1ページ前後。多少の増減可。特に「増」については歓迎。

③ 末尾で、次回の執筆者を簡単な紹介文（指名理由）つきで指名して下さい（「日頃お世話になっている～さん」とか「～で一緒したご縁で是非もう一度会いたい●●さん」とか）。京都の大図研会員ならだれでもOKですが、このさい、あまり一般に知られていない人材や、交流の少ない職場を発掘しましょう。

④ もちろん、指名された人は拒否権なしの約束。

以上の内容で自由をお願いします。但し、「次回は●●大学の●●さんです」という風につないでいく必要上、原稿執筆時点で次回執筆者にはしっかり内諾を得ておく必要があります。確実に次回執筆者を確保・説得したうえ、原稿送付と同時に次回執筆者名、勤務先（電話、FAX番号、電子メール宛先等）をお知らせください。改めて編集担当の方からご本人宛に執筆要領をご案内します。その時に押問答になっても困りますので、次回執筆の内諾はくれぐれも確実にこなして下さい。ご多忙中恐れ入りますが、企画の趣旨に鑑み、ご協力よろしくお願い致します。

⑤ なかなか指名が無くて、待ちきれない人は、編集担当あるいは、最寄りの支部委員へご連絡ください。調整をします。

（付）原稿の作成要領

（１）可能な限りワープロ原稿で、お願いします。

ワープロソフトは、「一太郎」「ワード」の場合は、そのままお送りください。その他のワープロソフトをお使いの方は、MS-DOS 標準 TEXT 形式あるいはリッチ TEXT 形式に変換のうえ、送付をお願いします。

（２）送付方法

①電子メール（電子メールを使える方は、必ず電子メールでお願いします）

②3.5インチフロッピー（人づて、あるいは、郵送）

貼込の図表、カット等がある場合は、汚損を防ぐため厳重に保護した上で送付して下さい。

念のため、プリントしたものも添付して送付して下さい。

編集終了後、何らかのルート（大図研ルート等）を通じて出来るだけフロッピーはお返ししたいと思います。事故防止にも備えて念のためバックアップをお願い致します。

新企画のお知らせ！

支部報11月号より、新企画として連載小説を教珠つなぎと併せて掲載します。

表題は「リコウ」

作者は、西田 治氏（ペンネーム）です。

「これで、直木賞とれたらと思うけど、まあ、絶対無理だね」とは、作者の言。

「でも、多少は、会員のみなさんのご期待には、添えるのではないかと考えますので、よろしくお願いします。」とのこと。

作者もれっきとした京都支部会員ですので、みんなでもり立てていっては、どうでしょう。感想などは、支部報編集担当者にとどしどしお願いします。それも、支部報に乗せたいと思いますので。これで、会員相互の親睦がはかれれば、一層幸いです。

では、11月号をお楽しみに！

1996年度決算

(1996.7-1997.6)

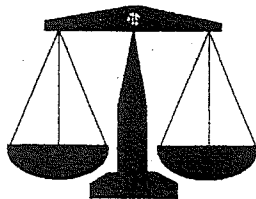
総収入	総支出	差引残高
366,651	209,709	156,942

収入の部

項目	予算	決算	増減	備考
繰越金	148,856	148,856	0	
1996年度会費	153,000	163,200	10,200	96名
1995年度会費	17,000	8,500	△8,500	5名
1994年度会費	0	1,700	1,700	1名
支部活動援助金	10,000	20,000	10,000	95,'96年度分
京都研究集会剰余金	0	22,000	22,000	
雑収入	0	2,395	2,395	カバ,利息
合計	328,856	366,651	37,795	

支出の部

項目	予算	決算	増減	備考
会報	60,000	48,290	11,710	
(内訳) 印刷費	20,000	9,400	10,600	
郵送費	34,000	35,690	△1,690	
通信費 等	6,000	3,200	2,800	
研究交流集会費	50,000	28,977	21,023	
(内訳) 新春合同支部例会	20,000	0	20,000	大阪開催
支部総会	10,000	8,977	1,023	96.7.1
京都研究集会	20,000	20,000	0	96.11.10 (注1)
全国委員会補助	30,000	30,000	0	10,000x3
特別事業基金繰入	100,000	100,000	0	
事務費	4,000	2,442	1,558	
予備費	83,856	0	83,856	
雑費	1,000	0	1,000	
合計	328,856	209,709	119,147	



(注1) 支部報151号(10月号)で「職員問題」ミニ研究集会決算の京都支部負担が1万円となっていました。「2万円」の誤りでした。訂正とお詫びを申し上げます。

1997年度予算

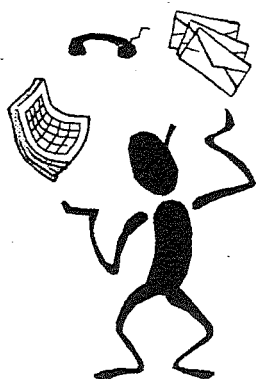
(1997.7-1998.6)

収入の部

項目	予 算	備 考
繰越金	156,942	
1997年度会費	153,000	90名
前年度未納会費	17,000	10名
支部活動援助金	10,000	
合計	336,942	

支出の部

項目	予 算	備 考
会報	60,000	
(内訳) 印刷費	18,000	
郵送費	36,000	
通信費 等	6,000	
研究交流集会費	90,000	
(内訳) 新春合同支部例会	20,000	
交流集会	20,000	新(注2)
支部総会	10,000	
京都研究集会	20,000	
ミニ研究集会補助	20,000	
全国委員会参加補助	30,000	10,000x3
特別事業基金繰入	80,000	
事務費	4,000	
予備費	71,942	
雑費	1,000	
合計	336,942	



(注2)新しい予算項目です。会員相互の交流会、班会等の開催促進のため援助金を計上しました。従って、交流会・班会等を開催した場合は、支部委員に参加人数、開催日等を報告してください。援助金を支給します。

特別事業基金 決算

項 目	予 算	決 算
繰越金	500,000	600,000
1996年度繰入	100,000	100,000
合 計	600,000	700,000

特別事業基金 予算

項 目	予 算
繰越金	700,000
1997年度繰入	80,000
合 計	780,000

会計監査報告

京都支部会計監査報告

現金・預金通帳・領収書等の管理は、適正におこなわれていました。

1997年9月26日

末益尚文 印
福井京子 印

今年度の会費納入のお願い

今年度総会が、「職員問題」ミニ研究集会開催のため9月になり、会費の請求が遅れていますが10月中には、発送しますので納入方よろしくお願ひします。

いい、それだけ。アサヒ・サッポロなんかの瓶は、どうにも肩を張ったようでもう一つ好きになれません。もっとも、お中元お歳暮など贈り物でいただいた場合には、どこのメーカーであっても缶であっても、飲まずに置いておくことはもっと資源の無駄になるから、よろこんで載っている。つまりは物を大切にすること、勿体ないという気持ちを失わないことだと思う。(話は戻りますが、藤田平は、高校時代からずっと同じグラブを使っていた。試合に勝ったからといってグラブをスタンドに投げ込んだりするどこかのピッチャーと違って、やっぱり、天才は道具にも地球にも優しい！)

つ 最近のテレビドラマでよかったのが、「円」の輝く夜だから」。うどん・ラーメンと長いものがすきで、ラーメン屋という設定について見ているうちに最終回までいってしまった。ところで京都のラーメン屋でどこが一番と思います？なに？ここは「つ」で、「ら」とはちがう？ゴモットモ！（ちょっとこの「つ」の項は無理があったようで、我ながらつらいところです。つぎに行かせてもらいます。）

て じつは僕はてっちゃんなのだ。といっても焼き肉の話ではない。そう鉄道ファンなのである。尤もこの世界、ものすごいつわもの（おたくというべきか？）がいるので、あえてマニアといわずにファンと自称している。（同じことか？）地球の愛し方同様、この世界にも各人各様それぞれの理屈に裏付けられた実践論があるが、ただいたずらに乗車種類・回数や、キロ数を誇るようでは、まだまだ尻が青い。勿論吹聴するのは邪道で、男は黙って・・・というのがいい。（今回は原稿を頼まれたのでやむを得ず告白しているので）景色の眺めかたを例にとると、名鉄パノラマカーの様に車両先頭に座席がある場合は勿論そこに座るべきだが、最低条件として窓側に座ることが必要。そしてどんな暑い日差しが射していて、隣の人が迷惑そうであっても、そんなことでひるんではならない。（眩しいからカーテンを引いて下さいときつくいわれたことがあったが、外を見てないと酔うんです、と断った！）車窓からの眺めというのはその都度新しい発見があって（一寸大袈裟か？）、飽きるということなど考えられないのに、窓側に座って新聞や週刊誌を読んでいる人がいるが、気が知れないネ。（ここで皆さんに内緒の話。実は大館氏もてっちゃんなのです。もっとも彼の場合は、青春18切符なんかで何処までも鈍行をしこしこ乗り継いでいくタイプですけどね。でもそんな素振を一切見せないところが、真のてっちゃんなのだ。）

と きわめて個人的なことばかりぶつぶつ言いながら、やっと「と」まで数珠を繰ってきましたが、ついに時間とタネが切れてしまいました。とほほ・・・、ということで give up. 今回はこれにてご容赦下さい。

(いやーそれにしても、秋山千奈美さんは偉大だ！と、つくづく思った上田でした。)

*上田さんは、秋山さんを持ち上げながら結構楽しい「数珠つなぎ」を書いていただいで感謝しています。思わず最後に吹き出してしまいました。ところで、文章が2ページにわたりましたので、ページを逆進して掲載させていただきました。あしからず。実のところ「数珠つなぎ」の原稿の字数をお伝えしなかったのが、1ページに収まらず、編集子も「とほほ・・・」でこのような処置を執らざるを得ませんでした。上田さんには、まことに申し訳ないことになりましたがお許しください。(編集子)

